

倉橋惣三先生の御遺族の寄附を基に、倉橋賞が定められ、日本保育学会の大会において初めて授与をみたのは、昭和三十一年のことであつたといひます。爾來毎年の学会研究発表の中で、秀でてゐると見なされた研究が、幾許かの賞金を附せられ、受賞の榮で称えられてきました。この倉橋賞が、来年度からは、日本保育学会研究奨励賞と名を変えることになりました。故山下俊郎先生の御遺族からの寄附を受け、二つの基金に因つてたつて研究奨励賞が制定されたのです。倉橋賞の名が消えることに對し、一抹の寂念を禁じ得ないのは、本誌に深くかかわつてゐるゆゑでしようか。倉橋賞と山下賞の二つの賞を設け、それぞれに異なる質の、共に卓抜した研究を精選してほしかつたと、或る人が身近く呟いた声が耳に残ります。

さて、本号より、最後の倉橋賞受賞者の研究が続いて掲載されます。本号をも

つて掲載が終了するのは、仁科弥生氏の「エリックソンと幼児教育」。E・H・エリックソンの『幼児期と社会』をはじめとする一連の論考を、二十回に亘つて紹介いただいたものです。仁科氏のこれからの御研究は、日本の女性の自我の発達を高群逸枝など個々の人物のライフヒストリーを追ひながら続けられていく御予定だそうです。

津守真先生の連載が始まりました。愛育養護学校に引つ越された先生は、その爽やかな心映えを「朝に思う」と題して寄せて下さいました。昭和十三年にわが国最初の知恵おくれの幼児保育室が、愛育研究所の中に開設され現在に至つていますが、今、財政的に困難な立場にゆきあたり、関係者が結集して「愛育養護学校後援会」を、この七月、発足させました。養護学校を長く見守つていただいたという呼びかけが、一人でも多くの方々に届くことが念じられます。(美)

幼児の教育 第八十二卷 第十号

十月号 ①

定価三〇〇円

昭和五十八年 九月二十五日 印刷
昭和五十八年 十月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 本 田 和 子
発行人

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発行所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

●本紙御購読についての御注文は発売所フレイベル館にお願いいたします